国士舘大学新聞

題字は創立者
柴田德次郎筆

発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03-5481-3115

独自の緊急支援策実施

新型コロナ対応

新型コロナウイルス感染拡大は本学在学生の授業や研究活動のほか、就職活動、課外活動、経済状況など、あらゆる方面に影響を及ぼした。

４月８日のキャンパス入構禁止措置以降、春期授業をすべて遠隔で実施してきた本学は、全国の緊急事態宣言が解除された5月25日以降も引き続き入構禁止措置を継続した。

その後は、社会状況を注視しつつ、5月29日には本学スポーツ協議会指定クラブの活動を、公共交通機関を利用しない学生のみ限定的に再開し、7月1日には一部科目の対面授業および研究活動を再開するなど、段階的な緩和措置を講じている。引き続き、状況変化に応じた対策を行うこととしている。

（関連記事４面）

対面授業再開へ自覚と見識を

オンライン授業の実施と、大学教育の要諦　佐藤圭一学長が談話

まずはこのたびの九州を中心に全国各地で発生した豪雨災害で被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表します。

オンライン授業の選択

さて、新型コロナウイルス騒擾で迎えた令和2年度でしたが、本学は、春期授業をすべてオンライン（遠隔授業）で行うこととしました。当初、多くの学生諸君は自宅のWi-Fi環境や使用機材、そして未体験の授業形態への不安もあり困惑されたことと思います。

本学では、manaba（講義支援システム）を主軸として、収録可能なオンデマンド方式・リアルタイム方式のツールを選択すると共に、教育の質の確保を第一目的として、教職員の創意工夫により学部・研究科の各々の特性に合わせた取り組みを実施しました。今後も教員一人一人が授業内容を検証し丁寧な個別指導を心掛け、ICT（情報通信技術）時代に相応しい可能性や利便性、創造性を修得できるよう、実践を重ね教育効果を高めてまいります。

また、コロナ禍を機とする、より高度で多様なオンライン教育の進展を視野に、社会変化に対応するための取り組みも進める所存です。

修学支援の充実も

コロナ禍では多くの活動が制限を余儀なくされました。キャンパス入構禁止措置に伴い、課外活動を中止し、キャリア・就職支援や図書館の利用など修学のためのあらゆる支援を、これまでとは異なる方法で実施することになりました。現下における研究活動への影響は言うまでもありません。

そこで本学は、ウェブや電話を利用した学生相談やガイダンスの開講、図書館の利用など、新たな方法での修学支援を展開しています。加えて、経済的支援のための本学独自臨時奨学金制度などを通じて、本学での学びを継続できる手立ても講じています。

大学教育の要諦と対面授業の再開

とはいえ、オンラインには明らかな限界があります。皆さんは本来の大学生活を実感できないことに焦燥の思いを募らせていることでしょう。

「世の中に幾ばくかの良き価値を遺すことが、人としてのこの世に生を受けた意味である」とするならば、大学とは独善や独断を排し、真理追求の場であり、そのためには教員そして仲間たちとの語り合い、励まし合い、切磋琢磨することがとても大切です。目標を同じくする仲間たちとの喜怒哀楽を共有できるという大学本来の創造的空間が遮られている現状を早期に改めなければなりません。

そこで、本学では感染防止のための厳格なガイドラインを作成し、対面授業開始に向けて鋭意、準備を整えております。ただ、第2波への備え、命を守るためのソーシャル・ディスタンスの確保等により、通常とは異なった対応も施さなければなりません。そして何よりも、学生諸君の一人一人の自覚と見識に基づく責任ある行動なくして、キャンパスでの授業は実現できません。ご理解を賜りたく存じます。

閉散として静まり返ったキャンパスが、皆さんの歓喜と笑顔で再び活気横溢することを一日千秋の思いで待ち望んでおります。皆さんの〝夢・成就へ〟の願いを込めて！

オンライン授業の様子
（文学部・長谷川均教授）

全学生・生徒に８万円給付

家計急変者の授業料 半額貸与

本学園はオンライン授業の開始に先立ち、各家庭におけるオンライン環境の整備補助として、本学園の全学生・生徒に対し、一律8万円の緊急給付金を支給することを決定し、4月28日に本学ホームページで公表した。

本学学部生および大学院生には、普通為替証書を5月26日から順次、学納金納入者住所宛てに郵便書留で送付し、高校生および中学生には5月中に、授業料引き落とし口座への振込みを行った。

さらに、新型コロナウイルスの影響による家計急変を受けて授業料の納入に困難が生じた本学学部生および大学院生に対して、授業料の半額を無利子で貸与する「新型コロナウイルス感染症の影響等に対する学費支援制度」を行うことを決定し、6月30日に公表した。

本制度における貸与額は、学費のうち授業料自己負担額の半額とし、卒業時まで返還を猶予する。本学卒業時に審査の上、返還義務が免除される。貸与期間は令和2年度のみ。7月20日に申し込みを締め切り、審査を経て11月頃に採用可否が通知される。

学内奨学金制度も

このほか、授業料が減免になる修学援助奨学生や毎月定額で奨学金を給付する外国人留学生奨学生など、本学独自の奨学金制度でも並行して募集を行った。

「震度５強」や大災害発生時に発動

安否確認システム導入

本学では、大規模災害発生時に学生および教職員の安否確認を迅速かつ確実に行うため、5月からセコム株式会社が提供する「国士舘大学安否確認システム」の導入を開始した。

本システムは、対象地域で「震度5強」以上の地震が発生した場合に、気象庁から配信される地震情報をセコムが取得し、登録者に安否確認メールを自動的に配信。利用者は専用アプリやLINEなどで返信し、収集された安否情報は管理者がリアルタイムで自動集計する。

これによって、迅速な安否確認と効率的な集計データの蓄積が行えるようになるだけでなく、掲示板機能を活用した円滑な情報共有が可能となる。

また、地震に限らず大規模災害など危険発生時にも、災害による影響を精査し、必要に応じて安否確認を行う。

学生には、本システムの概要や初期設定方法を記した「利用者初期登録マニュアル」をmanaba（講義支援システム）上で公開し、全学生の登録が完了した。

教育後援会 書面で総会

事業計画にコロナ対策も

本学学生ご父母で構成される国士舘大学教育後援会は6月、発足から5回目となる令和2年度の総会を新型コロナウイルス感染拡大への対策として資料送付による書面で行った。

令和2年度は、大学の各種事業が中止または縮小され、授業も遠隔となっている一方で、さまざまな緊急対策がされている状況に呼応し、例年と大きく異なる事業計画となった。

新規事業として、将来計画に向けた「奨学金等積立特別会計予算」の創設、国士舘安否確認システム導入への支援、東京オリンピック・パラリンピック関連事業の活動支援、新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援に関する諸施策への支援などが決議された。

継続事業のうち、新入生への入学お祝い品として用意した防災セット（写真）は、後期授業開始後に配布する予定。

また、SPI模擬試験の受験料支援については、春期授業期間中に予定されていたSPI模擬試験の実施が困難になったことから、SPI試験対策本を3年生全員に無料配布する事業を全面支援した。

外国人留学生奨学生は、本年度の授業が開始された5月からさかのぼって給付する。募集期間は7月31日まで。

文化財石垣 技術協会を設立

初代会長に橋本教授

文化財石垣補修・補強技術協会が7月に設立され、発起人の一人である本学理工学部の橋本隆雄教授（写真）が会長に就任した。

本協会は、城壁および伝統的建造物群石垣の補修・補強対策工法を構築し、その技術を全国に普及させることを目的としており、会員として関連企業13社と本学を含む大学2校が参加する。

文化遺産である石垣の多くが地震や豪雨により、孕みなどの変状を生じ、崩壊する恐れがあるものの、土木・地盤工学分野の視点で十分な対策技術が確立されておらず、多くの地域での補強対策への要望に応えられていない現状がある。

歴史的な文化遺産を後世に受け継ぐためにも、本協会では、施工・模型実験や高度な解析を駆使し、極力現状維持したまま新たな工法を構築し、保存と伝承を目指す。

受付をウェブ化

学生の総合相談窓口

本学は、学生からの面談申し込み受付をウェブ化した。面談内容は、学修、学生生活、人間関係、進路、退学・休学などを想定。学生が申し込んだ相談内容をもとに、希望する面談対応部署や配慮内容を加味したうえで面談対応者を決定する。面談方法は、状況に応じて対面、電話、ウェブ、メールなど。

コロナ禍以前には日常の中で行われてきた学生への声かけや相談が難しい状況下で、受付をウェブ化することにより、学生からの相談申込が行いやすい環境を作るのが狙い。

総合相談窓口として位置付けることで、どこに相談していいかわからず相談に至らなかった潜在的な学生ニーズの発掘にもつながることが期待される。

ウェブ化を機に、これまで各学部で行っていた面談記録の統一を図り、全学的に相談内容や対応方法の蓄積ができるようになる。蓄積された情報は、学生支援のための対応検討に役立てる。

※学生相談申込ウェブ受付フォーム↓

進学相談サイト開設

本年のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からすべて中止とした。

オープンキャンパスに替わって受験を検討する高校生への進学相談を受け付けるため、6月からウェブによる進学相談を開始。7月からは特設サイトを開設し、ウェブ相談の予約のほか、入学者選抜の概要説明動画やキャンパスツアー動画などを配信している。

「WEB進学相談」サイトはこちら↓

入試改革元年

新たな入学者選抜の実施

本学は、令和2年度に実施する令和3年度入学者選抜から「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（平成29年7月13日付文科高第355号高等局長通知）」に基づき、入試区分名称、入学者選抜実施日程、実施方法、大学入学共通テストの実施などの変更に伴う新たな入学者選抜を行う。

大学のアドミッション・ポリシーに適合しているかなど学力の3要素を多面的・総合的に評価することを加えた入学者選抜となる。

本年は、特に新型コロナウイルスの影響で、実施内容などの変更を余儀なくされる可能性もあるが、公平公正に努め、万全を期して実施する。

学内イベントを中止

本学は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、次のイベントを中止いたします。

■オープンキャンパス：本年の全日程を中止（8月29日、30日、9月26日、27日）

■父母懇談会：本年度中止

■学園祭：鶴川祭（町田キャンパス）、楓門祭（世田谷キャンパス）、多摩祭（多摩キャンパス）を中止

■ホームカミングデイ：中止

学園閉鎖のお知らせ

本学は法律に基づく省エネルギー対策の一環として次の期間中、学園を閉鎖します。この間に管理者・許可者以外は入構できません。

■世田谷・町田・多摩キャンパス：8月19日～23日

■中学・高校区域：8月11日～19日

災害による本学の支援措置について

このたびの九州を中心に全国各地で発生した豪雨災害で犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまの安全と被災地の復興を心よりお祈りいたします。

在学生の皆さんへ

本学では被災世帯の在学生に対し、次のとおり経済的支援措置を講じます。

■学費の減免

内閣府の災害救助法適用地域世帯の学生に対し、被害状況に応じて授業料の半額を免除します。

【お問い合わせ】
学生・厚生課（全学部対象）
03（5451）8114

■日本学生支援機構奨学金の申請受付

給付奨学金の家計急変採用、貸与奨学金の緊急・応急採用等の申請手続きを受け付けます。

【お問い合わせ】
学生・厚生課奨学金窓口（全学部対象）
03（5451）8113

被災された受験生の方へ

令和3年度入学試験において、内閣府の災害救助法適用地域出身受験者を対象に入学検定料を全額免除します。該当者は事前にご連絡ください。

【お問い合わせ】
入試部：03（5451）3211

中高は通常授業を再開

万全の感染防止策

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、およそ2カ月にわたって休校が続いていた国士舘中学校・高等学校は、5月11日からオンラインツールを用いた授業を開始した。

5月8日には授業開始に先立ちオンラインによるホームルームが行われ、画面上ながら久しぶりに顔を合わせた生徒らは同級生との対面に喜びの声を挙げた。

緊急事態宣言の解除を受け6月1日からは分散登校が開始され、この日開かれた全校集会では、新しい生活様式を遵守した学校生活における注意点が伝えられた。授業は大学の教室を活用するなど3密回避を徹底。部活動も時間・人数を制限し、徐々に再開された。

そして6月29日には、一斉授業を再開した。登校時のサーマルカメラなどによる検温や各教室へのサーキュレーター設置などの感染防止対策を施しつつ、都の感染状況に応じた柔軟な措置を講じ、生徒への感染防止に努めている。

大学の教室を利用した授業の様子

国士舘大学

国士舘大学新聞はウェブサイトでもご覧になれます

www.kokushikan.ac.jp/information/public_relations/news_paper/

年４回・25日発行
（1・4・7・10月）

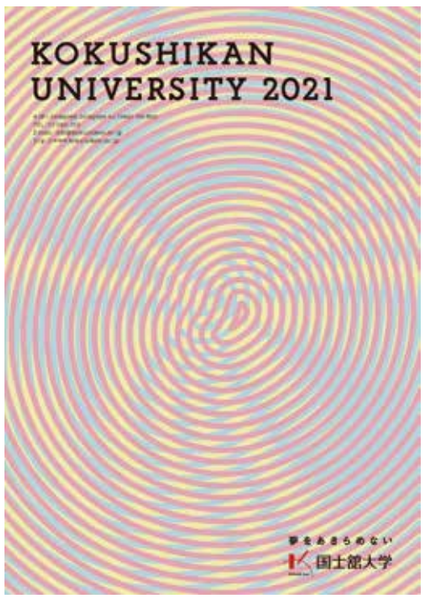
卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。
発送停止やご住所の変更は下記までご連絡くださいますようお願いします。

同窓会事務局
TEL：03-3413-7303
［平日 9:00 ～ 17:00］

今号の紙面

▼元教授6人に「名誉教授記」授与……【2面】
▼オンライン授業の質向上への取り組み……【4面】
▼理工学部・南教授が換気改善へ提案……【5面】
▼コロナ禍での本学アスリートそれぞれの思い……【6面】



▲大学案内 2021 を配布中です。

令和3年度（2021年度）入学者選抜要項概要

※詳しくは、「令和３年度（2021年度）入学者選抜要項」で必ずご確認ください。

AO選抜Ⅰ期		推薦選抜（一般公募制）	
選抜日程・選抜内容について		選抜日程・選抜内容について	
インターネット出願期間	10月２日(金)～10月９日(金)	インターネット出願期間	11月２日(月)～11月９日(月)
実施学部	全学部	実施学部	政経学部、理工学部、法学部、文学部、21世紀アジア学部、経営学部
試験日	10月24日(土)	試験日	11月21日(土)
合格発表日	11月２日(月)	合格発表日	12月１日(火)
入学手続日	１次手続締切日：11月16日(月) ２次手続完了日：３月１日(月)　郵送消印有効	入学手続日	１次手続締切日：12月15日(火) ２次手続完了日：３月１日(月)　郵送消印有効
選抜内容	小論文（600字）100点／60分 面接（政経学部・理工学部を除く学部）100点 口頭試問（政経学部・理工学部のみ）100点 書類審査（調査書、出願基準証明書、学修計画書）100点	選抜内容	小論文（600字）100点／60分 面接（理工学部を除く学部）100点 口頭試問（理工学部のみ）100点 書類審査（調査書、推薦書、学修計画書）100点

※AO選抜Ⅱ・Ⅲ期の実施学部・選抜日程等は、本学のホームページもしくは「令和3年度（2021年度）入学者選抜要項」でご確認ください。

◆https://www.kokushikan.ac.jp

名誉教授記 6氏に授与

令和2年度名誉教授記授与式が6月17日、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で執り行われ、本年度は6人の元教授に名誉教授記が授与された。授与後、佐藤圭一学長は「先生方の教育・研究における功績、また本学への貢献について心から感謝する。今後もその経験・知見をもってご指導をお願いしたい。そのためにも何よりも健康に配慮してほしい」とあいさつした。

続いて、列席した5人の受賞者があいさつに立ち「名誉教授の名に恥じないように研究を続けたい」「研究を続けているが、今日を契機にさらに精進していきたい」などと述べた。

本学名誉教授の称号は、教育、学術または文化の発展に特に功績のあった者に対して贈られる。

列席者全員で記念撮影。受賞者は前列左から藤本氏、原田氏、三輪氏、（佐藤学長）、中根氏、岡田氏

◇藤本　公明（ふじもと・きみあき）　昭和54年明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年本学教養部助手、同59年政経学部二部講師、平成5年同教授、同15年政経学部教授。政経学部長、経済学研究科長などの要職を歴任し、学部運営およびその発展に多大な貢献をした。在職41年。

◇田代　博司（たしろ・ひろし）　昭和58年中央大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。平成元年国士舘短期大学講師、同9年同教授、同14年本学文学部教授。国士舘短期大学国文科長、教務部長、学長室長、学校法人国士舘理事を歴任。大学運営、法人運営の重職を担い、学園の発展に貢献した。在職31年。

◇原田　信男（はらだ・のぶお）　昭和58年明治大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。平成10年博士（史学）（明治大学）。平成14年本学21世紀アジア学部教授。江戸時代の食文化に関する研究で多数の著書があり、日本の優れた食文化を世界に広めた。在職18年。

◇三輪　春樹（みわ・はるき）　昭和58年筑波大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学。平成14年本学21世紀アジア学部教授。同学部学生主任を務めた。21世紀アジア学部設立とともに本学に着任し、学部発展に多大な貢献をした。在職18年。

◇中根　雅夫（なかね・まさお）　昭和56年筑波大学大学院経営政策科学研究科修士課程修了。平成2年本学政経学部二部講師、同8年同教授、同23年経営学部教授。経営研究所長、キャリア形成支援センター長、経営学部長などを歴任。経営学部設置当初から学部発展に多大な貢献をした。在職30年。

◇岡田　保良（おかだ・やすよし）　昭和52年京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。平成6年博士（工学）（京都大学）。昭和55年本学イラク古代文化研究所講師、平成7年同教授。国際交流センター長、イラク古代文化研究所長を歴任。またユネスコやイコモスの委員などを歴任し、数々の世界遺産登録に関わり、遺産の保存に力を尽くした。現在は日本イコモス国内委員会委員長。在職40年。

楓の杜キャンパス 完工は8月

新型コロナが工期に影響

国士舘楓の杜キャンパスのグラウンド空撮（令和2年6月撮影）

本学園4番目のキャンパスとなる「国士舘楓の杜キャンパス」（東京都町田市野津田町）のグラウンド工事の竣工が、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、8月に延期となった。

現在は、約400人収容の観客スタンドのほかトイレ棟、正門横の駐車場やキャンパス内の道路整備が完了している。

今後は8月の竣工を目指し、グラウンドの人工芝敷設などの工事を進め、JFA（日本サッカー協会）による公認施設認定のための最終審査が実施される予定。

名誉教授川﨑治夫氏 逝去

高度情報化分野で功績

本学名誉教授の川﨑治夫（かわさき・はるお＝情報科学・プログラミング）氏が、4月4日に逝去された。享年72歳。葬儀は近親者のみで営まれた。

川﨑氏は昭和52年日本大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学。同年本学情報センター専任講師、同59年同助教授、平成12年同教授。情報科学センター長などを歴任した。

入職後は、開設して間もない電子計算機センターの発展を支え、情報処理講座の開講や事務の電算化などを通じて高度情報化社会の要請に対応できる人材育成と学園の情報化に尽力した。

海外を見てこよう

国際交流センターがサポート

留学へ2プログラム

本学は、2021年度交換留学生を募集している。

本学が提供する2つの留学プログラムのうち、この交換留学は、本学と海外協定校との間で調印されている「交換留学協定」に基づいて実施されるもの。留学先は世界15地域にある32の協定校から選択し、留学期間は約1年間。協定校で授業やレポート、試験をこなし、一定以上の評価が得られれば単位が認定されるため、授業や研究指導を受けるための語学力が条件となる。部活動に参加し、現地学生との交流を深めることもできる。昨年度は15人の学生が6カ国1地域に派遣された。

いっぽう、夏季と春季に開催される短期留学は、約3週間の語学・文化体験プログラムを通して国際感覚を養成するもので、初めての海外留学に最適。来年2月実施予定の春季海外研修は、9月中旬ごろに実施の有無を決定する。

いずれも、新型コロナウイルスの世界的な感染状況を注視しながら、変更などの判断をする。

【お問い合わせ】国際交流センター：03（5481）3206

【訂正】520号2面掲載の「役職者紹介」で任期を次のとおり訂正します。

●生涯学習センター　センター長／令和4・3・31まで

●国際交流センター　センター長／令和4・3・31まで

●図書館・情報メディアセンター　センター長／令和5・3・31まで

令和元年度決算の概要

（財務部）

令和元年度決算は、令和2年5月27日開催の評議員会・理事会において所要の手続きを得て承認されました。

以下に掲げる決算の概要は、令和元年度に実施した事業に基づき確定した計算書類のうち、事業活動収支計算書及び貸借対照表を用いて、同年度における収入支出の状況及び令和2年3月31日において保有する資産、負債及び純資産を前年度決算額と比較して説明したものです。

なお、「令和元年度計算書類」の内容は、「令和元年度事業報告書」とともに本学ホームページで公開しています。

●事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度内における教育活動収支、教育活動外収支を経常的なものとして、また特別収支を臨時的なものとして3つの活動区分に集計される事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにするものです。

1．教育活動収支

教育研究機関としての本業となる教育活動収支の差額では、対前年度1億3,200万円増加し、22億3,700万円となりました。

収入の内訳では、学生生徒等納付金は、授業料、施設設備費等の合計で対前年度3,600万円増加し、159億1,000万円となりました。入学検定料を主とした手数料は5億2,000万円、寄付金（現物寄付を含む）は9,500万円、経常費等補助金は、国から大学へ8億800万円、東京都から高等学校及び中学校へ4億6,800万円、その他の補助金と合わせて13億8,100万円の交付を受けました。付随事業収入では、学生寮に係る補助活動収入、本学が行う附属事業、学外機関からの受託事業及び本学が主催する公開講座収入と合わせて3億3,800万円、また雑収入では、退職者の減少に伴う退職金財団等交付金収入が対前年度5億6,300万円減少し合わせて5億2,500万円となりました。

これらにより教育活動収入合計では、対前年度4億1,200万円減少し、187億7,300万円となりました。

支出の内訳では、人件費で教職員への給与等として82億7,400万円、役員報酬、年金、退職金及びアルバイト等への賃金合わせて2億5,700万円。また、将来の退職金支払いに備えた退職給与引当金繰入額として4億6,600万円を繰り入れ、人件費合計では、対前年度6億8,200万円減少し、89億9,900万円となりました。

教育研究経費では、国内外における実習及び研究に係る旅費交通費、学生・生徒の資質向上及び人材育成に向けた奨学費、関連業務の「外国語教育の強化」「学生カウンセリング」「キャリア支援事業」「情報教育システム等保守運用管理」「図書館運営」「町田・多摩キャンパス近隣駅間のスクールバス運行」及び「学園内の警備・清掃」等の学外請負業者への委託料、ほか事業に要した経費並びに建物・構築物・教育研究用機器備品等に係る一年間の減価償却額との合計で対前年度1,200万円増加し、60億3,900万円となりました。

管理経費では、学園広報事業及び学生・生徒の募集事業等のほか直接的な教育用途以外の建物・構築物・機器備品等の減価償却額との合計で対前年度1億900万円増加し、14億800万円となりました。

また徴収不能額等では、未収入金の状況を踏まえた結果8,700万円となりました。

これらにより教育活動支出合計では、対前年度5億4,500万円減少し、165億3,600万円となりました。

2．教育活動外収支

教育活動外収支の差額は、対前年度1億3,000万円増加し1億8,100万円となりました。

内訳は、収入で受取利息・配当金2億1,600万円、支出で借入金等利息3,500万円です。

3．特別収支

当年度における臨時的な要因によるものとした特別収支差額は、対前年度1億4,500万円増加し、1億6,700万円となりました。

特別収入では、保有する有価証券の売却益として資産売却差額に1億5,700万円、また、その他の特別収入は、学園施設の総合整備事業を使途指定とした寄付金で200万円、科学研究費等を使途指定とした現物寄付金で1,400万円、施設設備の充実に向けた高等学校理科教育設備整備費補助金等で100万円、合わせて1,900万円となりました。

特別支出では、資産処分差額として施設改修に伴う一部施設の処分等における不動産処分差額600万円、その他の資産処分差額では当年度における「物品の不用決定」、「図書の除却」等を合わせて300万円となり、合計で900万円となりました。

以上の3つの区分による収支差額を合計した基本金組入前当年度収支差額では、25億8,600万円となり、3つの事業活動収入額を分母とする事業活動収支差額比率（当年度における経営の採算性を示す指標）は、13.49％となりました。

この基本金組入前当年度収支差額から、将来において保有する資産の維持確保に向けた基本金として16億4,600万円を組み入れた結果、当年度収支差額では9億3,900万円となり、前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は、マイナス209億4,600万円となりました。

●貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の資産、負債、純資産の状態を表示しています。

資産の部は、固定資産で577億1,000万円となりました。内訳では、有形固定資産で建物・構築物・機器備品等の減価償却による減少を含め対前年度13億9,000万円増加して414億700万円を計上しました。増加の主なる要因は、教育研究環境の充実に向けた多摩及び町田地区の新たな土地の取得に14億6,100万円、8月初旬竣工に向けた国士舘楓の杜キャンパスのグランド整備事業に係る建設仮勘定として5億6,400万円の計上によるものです。特定資産は、学生の厚生事業充足に向けた奨学基金としての第3号基本金引当特定資産の100万円と教育研究用機器の更新並びに施設の維持改修に向けた減価償却引当特定資産に2億円を継続増加し合計で24億7,000万円となりました。その他の固定資産では、保有していた有価証券の売却による減少で138億3,300万円となりました。

また、流動資産は、計上した3月31日から起算して1年以内に現金化される資産です。対前年度合計では30億6,900万円増加し、188億6,300万円を計上しました。

以上の結果、資産の部では、対前年度38億6,100万円増額して765億7,400万円となりました。

負債の部の固定負債では、既存及び新規土地取得資金等に充てた借入金の計画的返済により対前年度9億7,200万円増額して85億5,600万円となりました。

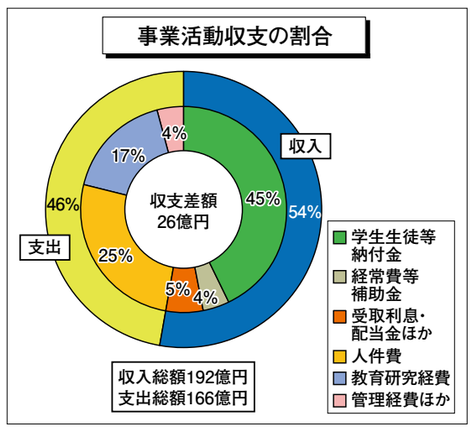
また、流動負債では、年度末において次年度に繰り越した取引業者への未払金及び長期借入金の内から翌年度返済予定とする短期借入金に主として授業料の前受金等を合わせて53億3,200万円となり、負債の部合計では、対前年度12億7,500万円増額して138億8,800万円となりました。

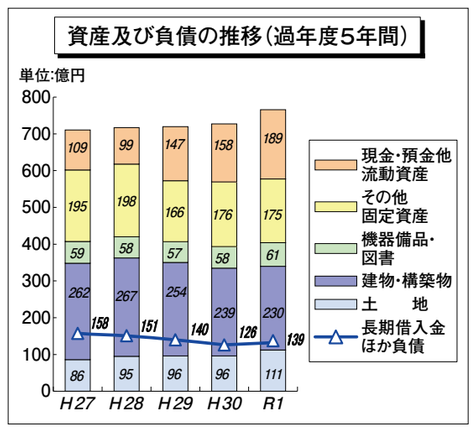
純資産の部は、資産の取得源泉を自己資本として基本金と繰越収支差額で構成しています。基本金では、第1号基本金に、本年度における施設等に係る借入金の返済額及び機器備品等の購入額として16億4,500万円を組み入れ、第3号基本金では、国士舘奨学基金として100万円を組み入れ、第4号基本金では、恒常的に保持すべき資金として前年度同額を計上し基本金合計では、対前年度16億4,600万円増加して836億3,100万円となりました。

また、繰越収支差額は、事業活動収支計算書における翌年度繰越収支差額と同額で、マイナス209億4,600万円となり、基本金及び繰越収支差額を合計した純資産の部は、前年度末より25億8,600万円増加して626億8,500万円となりました。

この結果、負債及び純資産の部の合計は、前年度より38億6,100万円増加して資産の部と同額の765億7,400万円となりました。

なお、説明上の金額表示は、100万円未満を切り捨てています。





令和元年度 貸借対照表

令和2年3月31日

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	57,710,674,219	56,918,411,585	792,262,634
有形固定資産	41,407,323,797	40,016,864,740	1,390,459,057
土地	11,101,663,815	9,639,689,905	1,461,973,910
建物及び構築物	22,990,285,574	23,944,648,722	△954,363,148
教育研究用機器備品	949,252,970	677,574,719	271,678,251
管理用機器備品	145,751,260	149,860,706	△4,109,446
図書	5,050,786,915	4,997,204,605	53,582,310
車両	5,769,881	8,783,883	△3,014,002
建設仮勘定	1,163,813,382	599,102,200	564,711,182
特定資産	2,470,042,000	2,269,042,000	201,000,000
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
第3号基本金引当特定資産	70,042,000	69,042,000	1,000,000
退職給与引当金特定資産	2,000,000,000	2,000,000,000	0
減価償却引当特定資産	400,000,000	200,000,000	200,000,000
その他の固定資産	13,833,308,422	14,632,504,845	△799,196,423
借地権・電話加入権	216,238,540	216,238,540	0
有価証券	13,600,368,200	14,399,033,200	△798,665,000
その他の資産	16,701,682	17,233,105	△531,423
流動資産	18,863,413,458	15,794,347,320	3,069,066,138
現金預金	18,204,245,663	13,720,896,414	4,483,349,249
未収入金	330,819,515	864,285,169	△533,465,654
貯蔵品	73,017,693	70,887,909	2,129,784
有価証券	200,000,000	1,094,400,000	△894,400,000
前払金・仮払金	53,196,665	41,921,866	11,274,799
別段預金ほか	2,133,922	1,955,962	177,960
資産の部合計	76,574,087,677	72,712,758,905	3,861,328,772

負債の部　（単位：円）

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	8,556,636,045	7,584,063,465	972,572,580
長期借入金	3,637,452,000	2,750,512,000	886,940,000
長期未払金	163,249,992	186,303,240	△23,053,248
退職給与引当金	4,755,934,053	4,647,248,225	108,685,828
流動負債	5,332,116,678	5,029,555,097	302,561,581
短期借入金	613,060,000	485,292,000	127,768,000
未払金	863,128,946	711,866,915	151,262,031
前受金	3,519,359,629	3,430,004,776	89,354,853
預り金	336,568,103	402,391,406	△65,823,303
負債の部合計	13,888,752,723	12,613,618,562	1,275,134,161

純資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	83,631,380,234	81,984,445,476	1,646,934,758
第1号基本金	82,270,338,234	80,624,403,476	1,645,934,758
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	70,042,000	69,042,000	1,000,000
第4号基本金	1,291,000,000	1,291,000,000	0
繰越収支差額	△20,946,045,280	△21,885,305,133	939,259,853
翌年度繰越収支差額	△20,946,045,280	△21,885,305,133	939,259,853
純資産の部合計	62,685,334,954	60,099,140,343	2,586,194,611
負債及び純資産の部合計	76,574,087,677	72,712,758,905	3,861,328,772

令和元年度 事業活動収支計算書（概略）

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで　（単位：円）

		科目	令和元年度決算	前年度決算	前年度差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	15,910,093,850	15,873,168,790	36,925,060
		手数料	520,949,450	526,410,222	△5,460,772
		寄付金	95,655,927	44,056,326	51,599,601
		経常費等補助金	1,381,802,897	1,354,886,373	26,916,524
		付随事業収入	338,992,062	314,016,656	24,975,406
		雑収入	525,979,564	1,073,489,748	△547,510,184
		教育活動収入計	18,773,473,750	19,186,028,115	△412,554,365
	事業活動支出の部	人件費	8,999,394,202	9,682,307,369	△682,913,167
		教育研究経費	6,039,887,831	6,027,574,033	12,313,798
		管理経費	1,408,760,479	1,298,914,387	109,846,092
		徴収不能額等	87,995,653	72,654,710	15,340,943
		教育活動支出計	16,536,038,165	17,081,450,499	△545,412,334
		教育活動収支差額	2,237,435,585	2,104,577,616	132,857,969
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	216,868,941	216,470,412	398,529
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	216,868,941	216,470,412	398,529
	事業活動支出の部	借入金等利息	35,584,357	166,057,002	△130,472,645
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	35,584,357	166,057,002	△130,472,645
		教育活動外収支差額	181,284,584	50,413,410	130,871,174
		経常収支差額	2,418,720,169	2,154,991,026	263,729,143
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	157,785,000	0	157,785,000
		その他の特別収入	19,067,594	32,399,512	△13,331,918
		特別収入計	176,852,594	32,399,512	144,453,082
	事業活動支出の部	資産処分差額	9,378,152	6,653,227	2,724,925
		その他の特別支出	0	3,462,458	△3,462,458
		特別支出計	9,378,152	10,115,685	△737,533
		特別収支差額	167,474,442	22,283,827	145,190,615
		基本金組入前当年度収支差額	2,586,194,611	2,177,274,853	408,919,758
		基本金組入額合計	△1,646,934,758	△1,650,279,485	3,344,727
		当年度収支差額	939,259,853	526,995,368	412,264,485
		前年度繰越収支差額	△21,885,305,133	△22,412,300,501	526,995,368
		基本金取崩額	0	0	0
		翌年度繰越収支差額	△20,946,045,280	△21,885,305,133	939,259,853

（参考）

事業活動収入計	19,167,195,285	19,434,898,039	△267,702,754
事業活動支出計	16,581,000,674	17,257,623,186	△676,622,512

詳細はホームページに掲載しています　https://www.kokushikan.ac.jp

国士館大学

01 大学に通えない日が続いて思ったことは？

02 ステイホーム期間中に取り組んだことは？

新体操日本代表　皆川夏穂さん
（21 世紀アジア学部　2019 年度卒）

キャンパスに学生がいない――。学生たちは今、何を思い、どう過ごしているのか。
そんな気持ちから、この企画は生まれました。
教職員やクラブを通して紹介していただいた学生に、２つの質問を投げかけました。

リモートで撮影してもらったそのメッセージには、
学生一人一人の想いが、実にバラエティ豊かに表現されていました。
意見を論じあうゼミ活動、目標に向かって汗を流すクラブ活動、何気ない友人とのひととき。
そんなかけがえのないキャンパスでの毎日を、また当たり前のように過ごせますように。

新体操日本代表　横田葵子さん
（21 世紀アジア学部　2019 年度卒）

オンライン 多様な展開

新型コロナウイルス感染拡大の社会情勢にあって、本学は令和2年度の春期授業をすべて、インターネットを利用したオンラインシステムの遠隔授業（オンライン授業）による方法で実施することを決定し、5月11日から授業を開始した。

また、各キャンパスで予定されていたイベントや学生相談等の実施が困難になったことから、manaba（講義支援システム）やウェブ会議システムなどを活用し、遠隔での学生相談を行うなど、授業以外の学生生活を支援するための取り組みを進めた。

遠隔授業 3つの形態で実施

質向上へ 教員170人ウェブ参加

FDシンポジウム

工夫それぞれ 実践報告

本学FD委員会は、6月27日に第22回FDシンポジウムを開催し、「オンライン授業実践報告会～さらなる質向上に向けて」をテーマに各学部教員らが報告した。報告会は、Zoomを利用したオンラインで実施され、教職員約170人が参加した。

長谷川均FD委員会委員長の開催主旨説明と佐藤圭一学長のあいさつの後、まず辰野文理教務部長からオンライン授業決定に至る経緯の報告と、問い合わせ内容から見える課題の推移、現在実施されている授業の現状が報告された。辰野教務部長は「授業がコンテンツ化したのが今回の大きな特徴。学生の予習・復習資料として活用できるほか、教員による授業の見直しにも生かされる。また、曜日や時限、教室定員などの授業概念が変化したことで、複数キャンパスでの開講や災害発生時の授業、他大学との連携など、授業形態の多様化にもつながった」と見解を述べた。

次に、10人の教員から実践報告があった。本シンポジウムでは、3つの授業形態のうち、「オンデマンド型」と「リアルタイム型」、そして併用型について取り上げた。

◆オンデマンド型

受講人数や配当学年に応じて各教員が展開する多様な授業例が紹介された。21世紀アジア学部の濱田英作教授は、音声付きパワーポイントスライドを配信しレポート課題を課す方法を採用。政経学部の古坂正人講師は、スライドを映したホワイトボードに板書しながら解説する様子を配信し、対面授業に近い雰囲気を実現した。

政経学部の田中重陽准教授は体育・スポーツ実習について報告。運動施設がない状況でもスポーツ科学への理解を深められるよう、該当種目に関連した運動トレーニング法を考案する課題を取り入れるなど、工夫を凝らした取り組みを紹介した。

実験科目の多い理工学部からは津野和宏教授が、教職員で行った実験動画を学生に提示し、理解を促すために細かな資料作成を心掛けたと説明した。

1年生を対象とするオムニバス形式の授業を担当する法学部の宍倉悠太准教授は、担当教員の意思統一を図り、授業の進め方やレジュメ形式を統一。manabaのrespon機能を活用した質問とフィードバックも重ね、学生から多くの質問が寄せられていると報告した。

◆リアルタイム型

救急処置の実習科目を担当した防災・救急救助総合研究所の月ヶ瀬恭子准教授からは、Zoomのチャット機能でGoogle Formsにリンクさせて出席登録や小テストを実施するなどの工夫や、2台のパソコンで学生からの見え方を確認するなど、リアルタイム型ならではの効率的な進行方法が紹介された。

また、文学部の石野裕子准教授からは、新入生を対象にしたオンライン・フレッシュマンキャンプやZoomのブレイクアウトルーム機能を活用した懇談会などの報告があった。

◆併用型

「オンデマンド型」と「リアルタイム型」の併用型は、英語授業を担当する経営学部の今村紅子准教授や、初年次導入教育を担当する経営学部の井岡大度教授および文学部の江川陽介教授が報告。講義部分と、学生からのプレゼンテーションやグループワークをする部分で授業方法を切り替え、効果的な授業を実現した。

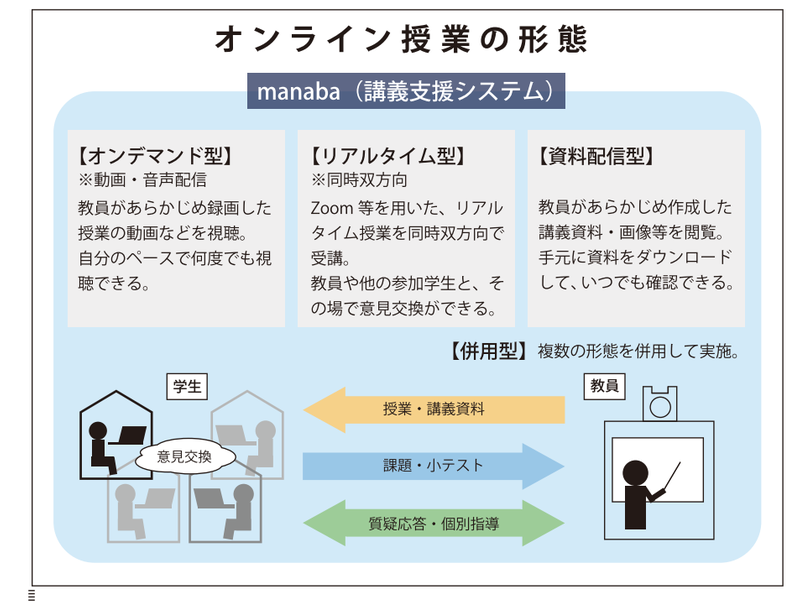
いずれの教員も、授業のわかりやすさに留意し多様な手法で理解の確認をするとともに、質疑応答など学生とのやりとりを通して授業への参加と定着を図るよう意識しているとの声が聞かれた。

最後に、6月上旬に実施した遠隔授業に関する学生および教員へのアンケートの結果が、学長室IR課から報告された。

今回の実践報告では、まずは質の維持を意識するという声が聞かれたが、アンケートで明らかになった学生の声を参考に、今後の授業を各教員が意識して質の向上に努めていくことになる。

テロップを入れてわかりやすさを追求した古坂講師

月ヶ瀬准教授のZoomによる授業風景



環境整え個別指導の機能も

授業

春期授業をオンラインで実施することを決定した本学は、ホームページなどを通じて全学生にオンライン授業のための受講環境の準備を依頼した。オンライン授業に関する学生からの質問にはmanabaにQ&Aを掲載すると同時に、メールなどで個別質問に回答し不安解消に努めた。

教員に対しては、300人参加可能なウェブ会議システム「Zoom」のライセンスを準備するとともに、オンライン授業のためのマニュアルの配布、サポート窓口の設置などの技術的支援を行った。

ウェブによる履修登録を経て開始された授業は、3つの形態「オンデマンド型」「リアルタイム型」「資料配信型」のいずれかまたはその併用で進められ、課題の提出、小テストの実施、質疑応答や学生同士の意見交換などはmanabaを介して行われた（図）。

教員からの要望により個別指導・相談ができるmanabaの機能を追加するなど、必要に応じて学修環境の整備を進めた。

また、実習・実技・実験科目および大学院生への論文指導などは、対面での指導が必要なことから、7月1日からキャンパス入構禁止措置を一部緩和し、特定の科目において対面授業を開始した。

秋期授業については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、キャンパスでの感染防止対策なども考慮した上で授業方法を決定し、本学ホームページやmanabaなどで通知する。

防災総合基礎教育

全新入生 実技も学習

4月18日から5月11日にかけて、全学部の新入生を対象にした防災総合基礎教育が実施された。

昨年度までは、e-learningと集合教育の2パートに分けて実施されてきたが、本年度は集合教育で行ってきた実技内容をe-learningに切り替え、遠隔での学習を可能にした。コンテンツは、心肺蘇生法や初期消火、搬送法などに加え、新たに感染予防、本学災害対応マニュアルの解説などを追加。各コンテンツの中で小テストを実施し定着度を確認した。

授業を担当する防災・救急救助総合研究所の月ヶ瀬恭子准教授は「e-learningで手順を覚えてから実技に入ることで、手技の習得がしやすくなる。対面形式での実技教育をより効果的にするものとしても、今後活用できる」と述べた。

本授業は、大学生として災害に備えた防災行動の理解と、発災時に共助のための応急手当や初期消火、搬送などが実施できるよう育成することを目的に、毎年新入生を対象に実施している。本年度の集合教育は、環境が整い次第実施できるよう検討している。

授業の現場から vol.30

島崎杉雄ゼミ

前列右から1人目が栗崎さん、2人目が大橋さん、左端が島崎講師

経営学部4年　栗崎 夏澄　大橋 渚

島崎杉雄先生は、昨年度に本学へ着任されたため、私たちが島崎ゼミ（すぎおゼミ）の1期生です。

私たちがすぎおゼミを選んだ動機は、ゼロベースからゼミを作り上げたいと思ったからです。そんな私たち1期生は「質×効率の追求」をしています。

すぎおゼミでは、財務会計を専門として、実証的研究に取り組んでいます。3年次春期は、財務会計の基本的知識を、グループワークを通して学び、夏休み前から共同研究にも取り組みました。

3年次秋期からは、データ分析に関わる統計的手法を学びながら共同研究を進め、12月に他大学との合同論文発表会に参加しました。私たちは「のれんの価値関連性」と「従業員の労働条件が企業価値に与える影響」を発表し、他大学の先生からも高く評価していただきました。私たちはこの一連のプロセスで、能力的にも、人としても大きく成長できたと確信しています。

現在は、Zoomによる遠隔授業を実施し、就職活動と並行して卒業論文に着手しています。コロナ禍の影響で、個性の強いすぎおゼミのみんなに会えない時間が続き、今までの対面授業の時間が貴重であったと感じています。しかし、島崎先生が圧倒的な当事者意識でゼミ生の連携をとってくださっており、ゼミ生はとても頼りにしています。

私たち1期生は、今後代を重ねていくなかで、すぎおゼミの伝統が形成されていくことをとても楽しみにしています。

藤井千恵子ゼミ

前列左から2人目が執筆者、3人目が藤井教授

体育学部4年　里倉 葵

こどもスポーツ教育学科の藤井千恵子ゼミでは、理科、生活科、幼児教育などについて研究しています。ゼミでは研究に関する資料などを読み込んで議論したり、考えたことをまとめたりして「読む」「書く」「話す」「表現する・伝える」などの力を高めています。

オンライン授業になった今期はZoomでゼミが行われていて、卒業論文や新型コロナウイルスに対応する「学校の新しい生活様式」について話し合いをしています。

今年の2月には卒業論文の研究を目的として、ゼミ研修旅行を実施しました。神奈川県立生命の星・地球博物館などへ見学に行き、地球や自然との共生について理解を深めるとともに、それらを活用した指導について考え、教員に必要な知識を身に付けることができました。また、小学校の授業参観に行くなど実地で学ぶ機会も大切にして研究に取り組んでいます。

藤井ゼミの特徴は、先輩と後輩のつながりが強いことです。年に一度、卒業された歴代の藤井ゼミの先輩方と現役のゼミ生が集まる歴代会が開かれます。多くの先輩方が教員になられているため、教育現場のことや教員採用試験に向けた勉強法などのお話を聞くことができます。先輩方から教えていただいたことを後輩に伝えるなど、つながりを大切にしています。

私たちは藤井先生のご指導の下、一人一人が主体的に学んでいます。真面目にやるときは集中して取り組む。楽しむときはとことん楽しむ。そのようなメリハリのある藤井ゼミで、私たちはこれからも切磋琢磨しながら学び続けていきます。

留学生就職ガイダンス

母国からの参加者も

本学キャリア形成支援センターは7月2日、オンラインによる「外国人留学生就職ガイダンス」を開催し、本学に在籍する外国人留学生19人がZoomを通して参加した。帰省中の母国からの参加もあった。

ガイダンスは、講師に東京外国人雇用サービスセンターの瀬下龍太郎氏を迎えた。瀬下氏はまず、卒業後に日本で働くための在留資格について説明。就職に必要な要件として、自身の専門性が活用できる業務であることに注意を促した。

次に、日本における就職活動の流れとその方法を解説し、外国人留学生に求められる能力について、調査結果をもとに説明した。瀬下氏は「外国人留学生は日本語だけでなく、自国語や外国の慣習を理解できるのが売り。日本に留学を決めた理由や、日本で就職したいと思った理由も語ることができるよう準備が必要」と述べた。最後には就職活動のマナーにも触れ、就職活動中の印象は採用につながる大きなポイントとなると締めくくった。

質疑応答では「英語能力はどの程度求められているか」という質問に、瀬下氏は「外国人留学生には、メールや電話でやり取りできる程度の英語力が期待されている」とアドバイスした。

ウェブ活用 電話での相談も

修学支援

キャンパスの入構禁止措置により、各部署では電話やウェブを活用した修学支援を実施している。

■図書館

各キャンパスの図書館休館中は、メールによるレファレンスのほか、自宅から利用可能なデータベースや電子図書館の情報を提供している。

また、授業の予習・復習や、卒業論文作成に必要となる図書館資料の郵送貸出を行っている。

限定的な開館情報については、本学ホームページなどで告知する。

■キャリア・就職活動

キャリア形成支援センターでは、就職活動中の学生に対しmanabaで大学指定履歴書を一時的にダウンロード可能にしているほか、電話相談やウェブによる面談を受け付けている。

3年生に対しては、本学オリジナル就活ガイドブック『Working Gear』およびSPI3対策教材を無償配布したほか、manabaでのキャリアガイダンスや、外国人留学生対象のオンラインガイダンスなどを実施している。

このほか、1～3年生に対しては、オンラインによる「しゃべり場」を定期的に開催するほか、1・2年生には、充実した学生生活を将来につなげるためのガイドブック『Working Gear Jr.』の電子ブックを学生ポータルサイトKaede-jiで公開している。

■教職支援室相談

各キャンパスの教職支援室では、小・中学校教諭の経験をもつ教職支援アドバイザーが、メールでの論文・志願書添削およびウェブによる個別面談、面接練習などを行っている。

■学生相談

学生相談室では、学生生活を送るなかで出合う問題や悩みについて、専門資格をもったカウンセラーが相談に応じている。現在は電話で相談を受け付けている。

※各支援の詳細は本学ホームページでご確認ください。↓

平成13年12月 プラタナスの移植

国士舘史資料室だより ○40○

「名木百選」プラタナスの由来

世田谷キャンパス8号館前にひときわ大きく堂々とそびえ立つプラタナス（アメリカスズカケノキ、スズカケノキ科スズカケノキ属）は、南ヨーロッパ～西アジア～インド、北アメリカによおよそ10種が分布する落葉樹だ。明治期に街路樹に向く樹種として日本に導入され、カエデにも似た大きな葉が特徴で、都内で見かけることも多い木である。

とはいえ、高さ25㍍、直径1・4㍍ともなると珍しいだろう。成長速度が速く、大きくなりすぎると街路樹ゆえに剪定や伐採されることも多いのである。この巨樹が本紙第520号で既報のとおり今年1月に「世田谷名木百選」（150件）に選定された。

世田谷区では昭和61（1986）年度に名木・古木を選定したが、選定から30年以上を経ていることもあり、新たに区民から推薦を受けた樹木を選定することとなった。候補木として令和元（2019）年7月には、樹高・幹周り・枝張り・樹木の健康状態・病害・虫害の状況等の調査が専門家によって行われた。

樹齢推定約100年を誇るこの木が植えられたのは、国士舘が世田谷校地に移った2年後、大正10（1921）年頃のことである。

現在の1号館付近に教職員宿舎（舘宅）4棟が整備され、うち木造二階建の1棟に創立期を担った山田悌一が居住し、その前庭の中央に植樹された。同時期に柴田徳次郎の舘宅前にも植えられたが根が張らず、昭和初期の台風により倒木してしまったと伝わっている。

昭和20年5月25日の米軍空襲時には、山田家一家はプラタナスの木の根元に退避したという。この空襲で校舎のほとんどが焼失したが、山田邸は大きく茂った枝葉により、焼失を免れた。空襲後、プラタナスの若葉は焼け焦げて茶色に変色していたとの回顧談が残っている（『満州鏡泊学園鏡友会創立60周年記念誌』平成6年）。なお、山田が主宰した満洲鏡泊学園の生徒・関係者による「鏡友会」の間でプラタナスはシンボルとして親しまれており、平成6（1994）年に世田谷区へ保存の働きかけをしたこともあった。

その後、山田邸は昭和27年には学生寮となり、昭和30年頃から主に女子学生用の「常盤寮」として、昭和58年頃からは、武道・徳育研究所などとなった。この間、プラタナスは構内が種々変遷していく様を静かに見つめてきた。

無事に樹齢を重ねてきたプラタナスだが、最大の「危機」は移植であった。平成13年12月22日～25日に、翌年完成する1号館（建学の森会館）建設に際して、北側へ約10㍍移植された（『大学新聞』第431号）。移植にあたっては、木の活着を最優先として、断根を最小限にかつ極度の振動を抑え、樹木を立ち姿で横に移動させる「立て曳き工法」が採用され、今現在もしっかりと根を張っている。

今回選定された「世田谷名木百選マップ」の発行は9月頃を予定されている。新型コロナウイルス感染症で現在入構禁止措置が取られているが、梢を見上げる学生や周辺住民の方々が構内に戻ることを楽しみにしたい。

（国士舘史資料室　小林 訓子）

◆資料提供のお願い◆

国士舘に関する資料や情報のご提供をお願いしています。例えば講義ノートや実習道具、思い出の写真・アルバムなど、学生時代の資料をお寄せください。

【ご連絡先】
世田谷キャンパス
柴田会館内
国士舘史資料室
TEL03（3418）2691

令和２年度科研費　50件に6477万円交付

文部科学省から、令和２年度科学研究費助成事業の研究種目別に交付決定があり、５月１日現在、新規採択15件（うち転入１件）、継続課題35件（うち転入３件・期間延長１件）の計50件の学術研究に合わせて6477万円の科研費が交付される。

採択された学術研究は、下表「令和２年度科学研究費助成事業採択課題一覧」のとおり。

令和２年度 科学研究費助成事業採択課題一覧

	研究種目	氏名	所属	職名	研究課題
新規採択	基盤研究(C)	平　浩一	文学部	教授	新聞小説の多角的研究―1920年代から1940年代を中心に
	基盤研究(C)	加藤　幸治	文学部	教授	医療サービスの立地と需給の地域構造に関する基礎的研究
	基盤研究(C)	松崎　史周	文学部	准教授	作文・推敲につながる文法の知識・技能とその指導法に関する研究
	基盤研究(C)	土居　裕和	理工学部	准教授	新体操審判における身体運動認知の熟達化過程とその脳科学的基盤の解明
	基盤研究(C)	二井　昭佳	理工学部	教授	洪水防御と地域・都市再生に向けた河川・都市計画の統合型計画技術の体系化と実装化
	基盤研究(C)	関根　明伸	体育学部	教授	韓国における道徳科教科書の内容分析的研究
	基盤研究(C)	中込　四郎	体育学部	教授	″こころの推進力″の様態からみたアスリートの心理的問題の類型化
	基盤研究(C)	土佐　昌樹	21世紀アジア学部	教授	東アジアの国民的アイデンティティ変容をめぐるマルチサイテッド・エスノグラフィー
	基盤研究(C)	小口　和美	イラク古代文化研究所	教授	前３千年紀シュメール・アッカド地方の政治と社会：出土史料の研究
	若手研究	島崎　杉雄	経営学部	講師	のれんとシナジーに関する研究
	若手研究	宍倉　悠太	法学部	准教授	発達障害を有する非行少年・不良行為少年への初期対応としての多機関連携の展開可能性
	若手研究	八木　堅二	政経学部	准教授	中国語方言音における地理的連続性と通時的変化の研究
	若手研究	平塚　和也	スポーツ・システム研究科	助手	骨格筋の状態を客観的に評価する方法の確立とその応用
	若手研究　転入	平野　智也	スポーツ・システム研究科	助手	３次元足部形状からみた子どもの足部アーチの定量化と体型や運動能力との関係の解明
	奨励研究	田村　浩志	政経学部	非常勤講師	救命胴衣着用ダミーが離脱に必要な牽引力の測定
継続課題	基盤研究(B)	阿部　武司	政経学部	教授	工業化初期における技術移転の研究：明治期日本綿紡績業の経験
	新学術領域研究（研究領域提案型）	土居　裕和	理工学部	准教授	″情動が時間知覚に与える影響″の発達過程とその個人差に関する神経生物学的研究
	基盤研究(C)	菱刈　晃夫	文学部	教授	メランヒトンのカテキズムに関する研究
	基盤研究(C)	太田麻衣子	文学部	准教授	長江流域秦楚文化の研究：漢帝国成立の文化的背景
	基盤研究(C)	小池　亜子	政経学部	准教授	地域ニーズを活かした外国人児童生徒等教育の教員研修づくりとその効果の検証
	基盤研究(C)	小野瀬倫也	文学部	教授	子どもの深い科学概念構築を志向した理科授業デザイン支援に関する研究
	基盤研究(C)	田中　重陽	政経学部	准教授	スポーツ競技者の筋・腱の力学的活動動態が筋パワー発揮能力に及ぼす影響を探る
	基盤研究(C)	竹市　勝	政経学部	教授	運動物体の捕捉に関する認知・予測特性と運動制御特性の解析
	基盤研究(C)	地神　裕史	理工学部	准教授	無意識に処理される視覚情報によって生じる生体反応の生理学的解析とスポーツへの応用
	基盤研究(C)	細越　淳二	文学部	教授	小学校体育授業担当者（学級担任、体育専科教員）の在り方に関する総合的研究
	基盤研究(C)	佐々木　浩	文学部	准教授	フィットネス教育を基盤とした小学校体つくり運動の学習プログラムの開発
	若手研究	齊藤　良子	政経学部	講師	言語学習による日韓・日中のイメージ良化要因研究
	若手研究	布田　徹	理工学部	講師	量子ウォークの作用素論的研究
	若手研究　転入	桐越　仁美	文学部	講師	西アフリカにおけるイスラーム系移民の危機回避に関する人類学的研究
	若手研究　転入	板山　真弓	政経学部	講師	新たな同盟像の提示に向けて―「対称・非対称ハイブリッド型同盟」としての日米同盟
	研究活動スタート支援	松浦　孝明	文学部	准教授	肢体不自由児者の移動視標に対する位置認知・位置予測特性と眼球運動特性の分析
	研究活動スタート支援	本間　貴子	文学部	講師	米国における知的障害教育カリキュラムの確立とその継承・課題に関する研究
	基盤研究(B)	沼本　宏俊	体育学部	教授	古代メソポタミア北部における歴史時代の物質文化の研究―日本隊の発掘資料を中心に―
	基盤研究(B)	橋本　隆雄	理工学部	教授	文化的遺産である熊本城石垣の耐震性能を備えた修復のための研究
	基盤研究(C)	河田　英介	政経学部	講師	アーネスト・ヘミングウェイ短編作品における文体美学とリアリズムの体系的研究
	基盤研究(C)	藤森　馨	文学部	教授	出雲国造北島家文書の総合的研究
	基盤研究(C)	本山　雅弘	法学部	教授	デザイン保護に関する意匠法保護秩序の特色とその合理性に関する基礎的研究
	基盤研究(C)	水野由香里	経営学部	教授	既存技術を活用した新事業領域の探索と既存事業領域の知を活用した新技術の探索
	基盤研究(C)	大橋　隆弘	理工学部	教授	慣用せん断と摩擦攪拌成形(ＦＳＦ）の組み合わせによる革新的異種材料接合技術
	基盤研究(C)	酒井　平祐	理工学部	准教授	低電圧駆動有機トランジスタの駆動原理解明とセンシングデバイスへの応用
	基盤研究(C)	金子　真人	文学部	教授	発達障害に併存する視覚性認知機能障害の早期検出と実用性の研究
	基盤研究(C)	河野　寛	文学部	准教授	筋力トレーニングに伴う動脈硬化機序の解明－動脈粘性の役割に注目して
	基盤研究(C)	羽田　克彦	体育学部	准教授	分子栄養医学に基づいたアスリートに特有な代謝障害の解明
	基盤研究(C)	後藤　貴浩	文学部	教授	スポーツ人材の地域への定着過程と生活実践
	基盤研究(C)	和田　匡史	理工学部	教授	加温によるヒートショックプロテイン発現が睡眠、競技パフォーマンスを改善する可能性
	基盤研究(C)	日下部辰三	体育学部	教授	頚動脈小体シナプス可塑性を応用した本態性高血圧治療法および予防法の開発
	若手研究	久保田裕次	文学部	講師	近代日本の「経済大国化」に関する基礎的研究―大正期を中心に―
	若手研究	鈴木　佑記	政経学部	講師	南海産品の管理・生産・販売をめぐる実証的研究―タイとミャンマーの漁民を事例として
	若手研究(B)　転入	川本　哲也	文学部	講師	「家族における養育行動の機能性と適応的意義：進化心理学的検討
	基盤研究(C)	林　一雅	法学部	講師	オンラインとオフラインの学習履歴データを統合したダッシュボードの開発と評価

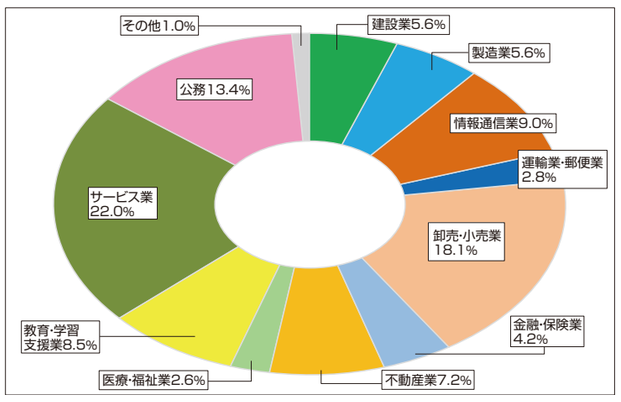
合計50件　新規採択15件（うち転入１件）、継続課題35件（うち転入３件、期間延長１件）

就職率 高水準96・7％

元年度の学部卒業生

令和元年度本学学部卒業生の５月１日現在の就職率は96・7％で前年度に続き高い水準を誇った。業種別では「公務」への就職者数が全体の13・4％と高い割合を占めた。なかでも体育学部で33％、法学部で19％と、全体を引き上げている。

学部別では、教員養成課程を設ける体育学部と文学部で「教育・学習支援業」が20％を超えたほか、理工学部で「建設業」「製造業」「情報通信業」合わせて45％を占めるなど、各学部での学びを生かした業種への就職が多くみられた。



全学部の業種別内訳（ホームページでも公開中）

警察官・消防官・自衛官は全国１位

平成30年度

4月に発売された『大学ランキング２０２１』（朝日新聞出版）の調べによると、平成30年度卒業生の警察官・消防官・自衛官への就職者数がいずれも全国の国公私立大学の中で１位に輝いたことが分かった。

消防官・自衛官が長年１位の実績を誇るなか、警察官は２位が続いていたが、学生の努力が実った結果となった。

就活　コロナ禍をチャンスに

本年度の就職活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、対面による説明会および採用選考が中止や延期になる、オンライン化が急速に進むなど、学生から戸惑いの声も聞かれる。キャンパス入構制限により、就職活動の悩みを先輩や友人、教職員に気軽に相談できない環境も不安に拍車をかけているだろう。

企業の業績悪化による来春の新卒採用計画への影響も懸念されるなか、本学キャリア形成支援センター大谷茂事務部長に話を聞いた。

◇

「企業も大学も試行錯誤しながら対応しています。本学は現在、遠隔による面接指導や電話相談など学生の不安を解消するためのできる限りの方策を講じていますが、従来の方法で支援ができるかといったら現状は難しい状況です。

ただし、コロナを理由に、就活ができない・就活支援ができないという理由づくりをしてはいけないと考えています。学生は感染防止を徹底しつつ、情報収集や自らを高める取り組みなどできることはいくらでもあります。

コロナ禍といわれますが、決して負の要素ばかりではありません。どのような人生を送りたいか、そのためには何を学び、何をすべきかを徹底的に考える機会を与えてくれたと思っています。そんな今だからこそ人生の目標や価値を考えること、つまり人生観を持つことが必要ですし、それが就活の第一歩といえるのではないでしょうか。そこを踏まえて個々の可能性を広げ、助言するのが当センターの役割と考えています。

自分だけが悩んでいるわけではないことを自覚し、家族と本音で話す機会としてほしいですね。どうしたら子どもの力になれるか、親だって悩んでいるのですから」

（編集部・聞き書き）

自分を見つめ人生観培う時間

室内の気流を見える化

換気改善へ提案

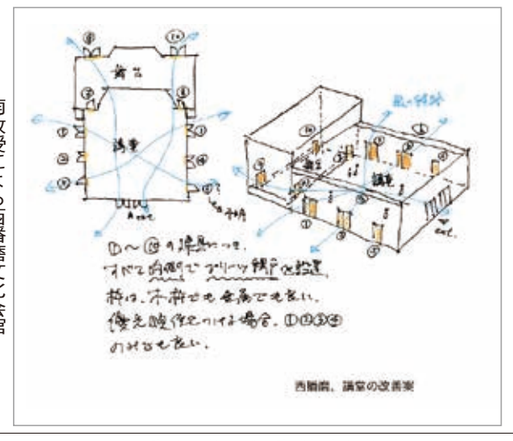
南教授　神戸商工会議所の取組み支援

理工学部建築学系の南泰裕教授（写真）は、神戸商工会議所から委託を受け、同所主催の「換気シミュレーション・プロジェクト」に学識経験者として参加し、建築的提案を行っている。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの感染拡大によって社会問題化する病院内での感染や建物内感染の全国的な発生を受け、３密のうち「換気の悪い密閉空間」の改善を支援するためのもので、公的施設や店舗など不特定多数が集まる施設を対象に、気流の動きをシミュレーションによって可視化する。南教授をはじめとする学識経験者による分析を付記したシミュレーション結果をもとに設備や技術導入などの改善提案を行うことで、施設の換気状況改善を支援する。

プロジェクトメンバーには南教授に加え、同研究室に所属する尾崎賢さん（院１年）、田嶋海一さん（４年）、林大雅さん（４年）、古川直也さん（４年）、山口尚哉さん（４年）が参加。シミュレーション技術を提供する企業や施設の改善提案を行う地元企業とともに本プロジェクトを進める。これまでに、南教授は対象施設である西播磨文化会館などで調査を行った。

今後は、来年２月をめどに複数の施設で改善提案を行う予定。



南教授による西播磨文化会館改善案ラフスケッチ

建築アイデアコンテスト

高校生・高専生の作品募集

本学理工学部理工学科建築学系は、全国の高等学校在籍生および高等専門学校１年から３年生を対象に「高校生建築アイデアコンテスト２０２０」を開催している。

第11回目となる今回のテーマは「植物と共存する家」。日々の暮らしを豊かにする植物を、単に家に飾るだけでない人と共存する家族として捉えた住宅アイデアを募集する。

応募作品は建築学系全教員が審査し、入選作品を５点程度選出。９月14日前後に建築学系ホームページで発表する。応募の詳細はこちら →

マスコミを追う

【新聞】

●第二次大戦中に外交官・根井三郎が迫害を逃れたユダヤ人に発給した日本通過ビザが発見された件について、21世紀アジア学部のジンベルグ・ヤコフ教授のコメントが掲載（毎日新聞6月6日）

●学生支援緊急給付金に設けられた外国人留学生の成績要件について、文学部の鈴木江理子教授がコメント（朝日新聞6月4日）

●日本国憲法制定73年にあたり「緊急事態条項が必要」として、政経学部の百地章特任教授のインタビューが掲載（毎日新聞5月3日）

●新型コロナウイルスの感染者急増による救急患者の受け入れ拒否について、防災・救急救助総合研究所の島崎修次所長のコメントが掲載（西日本新聞4月17日）

【テレビ・ラジオ】

●「突撃！カネオくん」で、「最新技術で劇的進化！首都高の最新お金事情」として理工学部の津野和宏教授が解説（NHK5月30日）

●「日経STOCKリーグ世界を知って明日をつかもう」で、日経STOCKリーグ2020に参加した政経学部助川成也ゼミ有志チームの約４カ月の取り組みを紹介（日経CNBC5月28日）

【卒業生】

●カザフスタン柔道代表を指導するコーチ千原慎太郎さん（平成22年体育学部卒）のインタビュー記事が掲載（朝日新聞6月11日）

著書紹介

東南アジア文化事典
共著　鈴木佑記（政経学部講師）ほか
発行　丸善出版
価格　20000円（税抜）

政治学入門
編著　平石正美（政経学部教授）、古坂正人（同講師）ほか
共著　石見豊（同教授）、織田健志（同准教授）、山田亮介（同講師）ほか
発行　成文堂
価格　2700円（税抜）

日本史概説
知る・出会う・考える
共著　勝田政治（文学部教授）、眞保昌弘（同准教授）、仁藤智子（同教授）、秋山哲雄（同教授）、夏目琢史（同准教授）、久保田裕次（同講師）、石野裕子（同准教授）
発行　北樹出版
価格　2400円（税抜）

グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育
日本史と世界史のあいだで
共著　久保田裕次（文学部講師）ほか
発行　大阪大学出版会
価格　2300円（税抜）

令和２年度事業計画

学校法人国士舘

はじめに

本年度の事業計画は、昨年６月に公表した「学校法人国士舘第２次中長期事業計画」の初年次実行プランと並行して行います。

今日、学校教育に新たな価値を創造し未来を担う人材養成が求められている状況の中、本学は終始一貫して建学の精神の下、「世のため人のために尽くしうる有為の人材の養成」を使命に掲げ、さまざまな改革を推進し教育環境の整備を進めています。

本年度の施設事業では、「国士舘楓の杜キャンパス」のサッカーグラウンドをメインとする教育スポーツ施設が竣工予定です。また多摩キャンパスでは「多摩南野校舎」の施設整備に入ります。

防災・省エネルギー対策関係では、世田谷キャンパスの大講堂（国登録有形文化財）の防災設備の改善工事を行います。また、地震等の発災時における学生・生徒の安否確認システムを導入し、全学的に安全安心な環境の向上を図ります。

管理運営面では、本年度から施行する「国士舘ガバナンス・コード」の周知を図り、教職員の使命・規範の遵守を強化していきます。また学園全般の環境整備や教育研究の充実を図り、様々な事業を展開します。具体的計画として第２次中長期事業計画に掲げる２０２７年の本学創立１１０周年を記念する事業募金を開始します。事務組織改編では収益会社設立を目的とする設立準備室を法人事務局に設置します。

教育研究面では、第２次中長期事業計画に示す大学、高等学校・中学校のアクションプランの実行に入ります。その中で「地域防災力向上のための防災リーダー養成教育に関する研究拠点の構築」を目指すとともに、被災地でのボランティア活動などをとおして、多様な人々と協働する力をつけた人材養成を推進します。

このように本年度事業は、教職員が一致団結して事業計画に掲げたプランの実現に向け邁進してまいります。

１　事業の概要

(1)「第２次中長期事業計画」初年次実行プランとの並行実施

(2)施設・設備の整備

〔世田谷キャンパス〕10号館外壁改修
〔町田キャンパス〕多目的グラウンド人工芝張替、正面入口の拡張工事、鶴川メイプルホール１階学生食堂厨房改修、15号館トイレ改修、12号館２階会議室改修
〔多摩キャンパス〕南野校舎整備工事、体育館棟第２アリーナ自動火災報知設備工事、相撲場の土俵改修
〔国士舘楓の杜キャンパス〕ＪＦＡ（日本サッカー協会）公認サッカーグラウンド竣工
保安、情報ネットワーク、空調、教室照明、証明書発行システム、図書館設備の更新

(3)防災・省エネルギー対策

安否確認システム導入、大講堂の防火・防災対策強化、防災・減災設備充実、防災・避難訓練実施、自衛消防組織の強化、建物の自主点検実施、防災点検実施、防災備蓄品の整備、空調・照明機器の省エネルギー化

(4)管理・運営

国士舘ガバナンス・コードの公表、事務組織の改編に伴う人事配置、世田谷プラットフォーム合同ＳＤ研修会の拡大、教職員合同研修の充実、ドキュメントステーションの活用促進、キャンパス内の環境緑化、新規募金事業実施、創立記念式典・祝賀会・ホームカミングデイの開催、監査の実施、国士舘史資料室事業の実施、信用格付の取得

２　財務の概要

基本的な考え方

令和元年度における国士舘大学の入学者数（大学院を除く）は、平成28年度以降、文部科学省の私立大学等経常費補助金上の交付要件に応じた入学定員充足率が、１０７・７％へ下方推移したことに伴い、平成28年度から令和元年度の在籍者数比は、３４７人減少しています。

収入の根幹をなす学納金収入および経常費補助金交付額は、国の入学定員の厳格化施策に起因した減少が見込まれています。保有資産の運用では、市場金利の低迷から受取利息等の収入も減少傾向にあります。

一方、支出では、人件費支出が圧縮困難な固定的経費として、支出総額の約50％を占め、更に恒常経費では、令和元年10月に改定された消費増税の通年化に伴い多くの増加が見込まれています。

このような状況下で、将来に向けた財務基盤の健全性を確保するため、以下の諸点を重点項目として今年度の予算管理を目指しています。

(1)収入面について

学生生徒定員の確保、募金活動の新たな取組、公的助成金事業への取組、資金運用収入の確保、科学研究費助成金および受託研究費等外部資金の確保

(2)支出面について

教育研究環境の充実に向けた重点的執行、施設・設備関係整備の推進、防災・省エネルギー対策の積極的な推進

主な教育・研究事業

３　大学・大学院

(1)教育・研究

①外部資金活用の教育研究の推進
　世田谷プラットフォームの推進、地域貢献における防災教育の推進
②世田谷６大学コンソーシアム運営委員会の推進
③ＩＲの活用
④学術研究支援の取組
　大学院生の研究支援制度の構築、研究費不正使用の防止、外部資金獲得支援事業の推進、研究業績データの整備、コンプライアンス研修の改善
⑤図書館の環境整備
　貴重資料の展示、収蔵図書資料の利用促進、館内施設のゾーニング化の推進
⑥国際交流の推進
　留学生データの適正保管、海外協定校との連携強化、交換留学の推進、海外研修の実施、地域交流会の実施、言語交換プログラムの推進
⑦国士舘スポーツプロモーションセンターの取組
　学生アスリートサポート体制の構築、スポーツによる地域活性化の推進、「スポーツとＳＤＧｓ」国際プロジェクトへの参画
⑧自己点検・評価と内部質保証の推進
　内部質保証推進、ＦＤ活動の推進
⑨ＧＰＡ制度の充実
⑩セメスター毎の履修登録実施のための調査
⑪教職を志願する学生への支援の充実
⑫授業支援の取組
　３キャンパス同時遠隔講義システムの構築、授業支援マークシート読取システムの整備、ＴＡ・ＳＡの活用促進
⑬各学部および大学院の主な取組
　教育システム検討委員会の設置、開設60周年記念事業実行委員会の設置（政経学部）、クラブ活動運営基盤充実プログラムの実行、教員志望者向け学習会の開催（体育学部）、理工学部実習工場の活用、建設材料・構造実験施設の更新（理工学部）、公務員・資格等ガイダンスの強化、講演会・相談会の開催（法学部）、アドバンスト講座の実施、オフィスアワーおよびＴＡ制度等の拡充（文学部）、学部独自の海外研修の実施、グローバルスタディプログラムの推進（21世紀アジア学部）、英語能力測定の実施、優良中堅・中小企業の調査研究の充実（経営学部）、社会人学生の受入推進、広報の充実、各種制度の整備（大学院）
⑭附置研究所の取組
　メソポタミア研究プロジェクト、写真画像のデジタル化（イラク古代文化研究所）、ニュースレター発行、ＪＩＣＡ草の根技術協力事業カンボジア救急医療体制基盤整備プロジェクトの実施、エジプト・アラブ共和国との人材育成事業の実施、防災セミナーの実施、災害ボランティア活動の実施、日本赤十字社との連携防災訓練の実施、相互支援のための地域防災の取組、ＢＬＳ講習の実施、イベントにおける救護活動の実施（防災・救急救助総合研究所）、沖縄自然体験教室の実施、ＴＡＭＡフレイル予防プロジェクト、スポーツ・トレーニング管理指導、健康増進プログラム「健寿の駅」の設置、多摩市子ども体験事業（ウエルネス・リサーチセンター）デジタル・アーキビストの養成（デジタルアーカイブセンター）

(2)学生支援

　キャリア支援の充実、健康管理の促進、学生生活支援、学生寮におけるグローバル人材育成支援

(3)地域・社会貢献

　地区行事支援、地域防災活動支援、福岡県太宰府市との文化交流活動、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック関連、公開講座の充実、せたがやeカレッジの推進

(4)広報活動

　学生募集広報の展開、国士舘スポーツチャンネルの充実、国士舘ブランドの醸成に向けた広報活動

４　高等学校・中学校

　ＩＣＴ教育の充実、グラウンドの整備、英語教育の強化、防災教育の取組、スーパーサイエンスハイスクールに向けた取組、最新情報の提供をはじめとした募集対策、インターネット出願システムの機能拡充による効率化

（詳細はホームページに掲載しています）

学校法人国士舘の規模等の概要

（令和２年５月１日現在）

■キャンパスの所在地と土地面積
　世田谷　56,771㎡、町田　90,019㎡、多摩　183,588㎡　計330,378㎡

■設置する学校
　国士舘大学（世田谷・町田・多摩）＝大学院、政経学部、体育学部、理工学部、法学部、文学部、21世紀アジア学部、経営学部
　国士舘高等学校（世田谷）＝全日制課程、昼間定時制課程
　国士舘中学校（世田谷）

■学生・生徒数

国士舘大学大学院	256人
国士舘大学	12,501人
国士舘高等学校	1,134人
国士舘中学校	119人
計	14,010人

■役員・教職員の概要

役員等	理事・監事・評議員・館長	計 37人
専任教員	大学310人、高等学校48人、中学校10人	計368人
非常勤教員	大学654人、高等学校34人、中学校３人	計691人
専任職員	法人67人、大学152人、高等学校６人、中学校１人	計226人

コロナ自粛、東京五輪開催延期…アスリートそれぞれの思い

それでも前へ 上へ

新型コロナウイルスの収束が見えずほとんどの試合や大会が中止や延期を余儀なくされた2020年上半期。しかしそんな状況を前向きに受け止め、「少しでも前へ」という意識を持ち続けているアスリートが本学にも大勢います。今回は、本学に所属するアスリート・指導者・学生に書面を通じて取材を行い、自粛期間をどのように過ごし、何を思ったのか、そしてこの先に何を見出したかについて伺いました。

学生として

レスリング部主将　阿部 敏弥選手

■趣味の動画でストレス発散

最初はそこまで重く受け止めていなかったのですが、感染者が増えるにつれ危機感が増してきました。近くのスーパーに行くのも怖かったです。

外に出られない状況だったので、部屋の中で映画を見たり、YouTubeで動画を見たりしていました。キャンプや野球といった趣味関連の動画を見ることがストレス発散にもなりました。

■オンラインで練習内容を共有

大学内の練習場が使えないため、各自ランニングをしたり、寮の駐車場で補強トレーニングをしていました。午前10時頃から1～2時間程度です。

午後は就活のための勉強をしたり、他の部員と連絡を取り合ったりしていました。

各自撮影した動画を部のLINEグループに送り合い、練習内容を共有もしました。空いた時間はZoomを使って部員同士でコミュニケーションをとっていました。

■主将として

他競技と同じように、本来行われるはずの大会がすべて中止になりました。レスリングに対するモチベーションが下がらないよう、レスリングの動画を見て自分を奮い立たせていました。

部員には各自がそれぞれトレーニングをすることと、部内から感染者が出ないよう、不要な外出は控えるように伝えていました。

■東京五輪延期について

再度東京オリンピックの予選会が行われるかはわかりませんが、少しでも出場のチャンスがあることを信じて、日々のトレーニングに励んでいきたいと思います。

■国士舘アスリートへメッセージ

コロナ禍は必ず収束します。そのことを忘れずに、今後の試合に目標を定めて今やるべきことに精一杯取り組みましょう。引退が近づいている4年生も、競技から離れずに常に前を向いていてほしいです。

■新たな気づき

コロナ禍を通じて、以前のように練習や授業ができていた環境が決して当たり前ではないことに気づくことができました。いま与えられている環境に感謝しながら毎日を過ごしていきたいと思います。

また、自粛期間中に学ぶことの楽しさを実感できたので、興味のあることについて学んでいきたいです。

■今後の目標、意気込み

直近の目標は12月に行われる予定の全日本選手権で優勝することです。そのために日々のトレーニングを今まで以上に頑張っていきたいと思います。

世界ジュニア選手権で優勝しベルトを掲げる（2019年）

あべ・としや

体育学部4年／帝京高／2019年世界ジュニア選手権優勝、JOCジュニアオリンピックカップ優勝など

環境のありがたさに気づけた

アスリートとして

陸上競技・十種競技　右代 啓祐選手

■自粛期間中の過ごし方

自宅では高負荷の練習ができない代わりに、腕立て伏せや腹筋などの自重トレーニング、ゴムチューブを使ってのトレーニングを中心に行っていました。

自粛期間中は朝6時に起き夜10時には寝るという生活でした。トレーニングは一日3時間以内にし、その他の時間は娘とのお菓子作りや工作、料理など、家族との時間を大切にしました。

学びの時間は必ず作るようにしていました。読書をする、競技の動画を見て分析をするなど、自分の時間を作ることがストレス解消になりました。

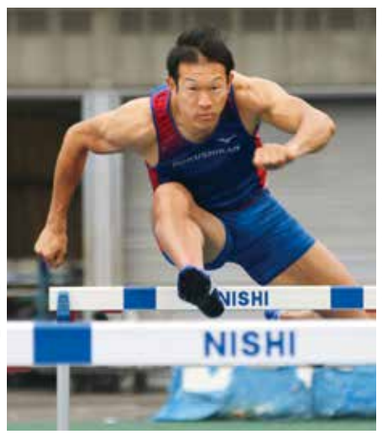
■東京五輪延期を受けて

東京五輪に向けて4年間ピークを合わせてきたので最初は戸惑いもありましたが、今なお多くの保護者の皆さまがいらっしゃるということも再認識し、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

■自主的な新体操部の選手たち

選手には個人でできるトレーニングを指示していましたが、彼女たちは指示以上のことをしてくれました。例えば、各グループのリーダーを中心にしてLINEで遠隔練習してねと指示すると、毎日どのグループもうれしそうに練習している動画を送ってくれました。それを新体操部のYouTubeチャンネルで公開する提案をしたところ、選手たちが自主的に「この事態で苦しんでいる人たちを励ます動画を作りたい」と話し合い、競技の枠を超えて広く皆さんに訴えかけるメッセージ動画を作ってくれたのです。こうした素晴らしい選手たちを指導できていることを、とても誇りに思いました。

学びの時間作りストレス解消



多摩キャンパス陸上競技場で練習に打ち込む（2019年）

うしろ・けいすけ

体育学部講師／札幌第一高―国士舘大―同大学院／アジア大会2連覇、2大会連続五輪出場、日本選手権優勝8回など

指導者として

新体操部女子　山本 里佳監督

■コロナ禍の受け止め

私自身のこれまでの人生の歩みと、これからの生き方を考え、そして自分の欠点と向き合う良い機会になりました。自分と深く向き合う時間をいただけたと受け止めています。

■自粛期間中に感じたこと

本学新体操部の選手や保護者の皆さまとは毎日、オンラインでつながることができました。海外の審判や友人とも頻繁に連絡を取り、互いの現状を報告し合ったり、研究の手伝いをしたり、昔話に花を咲かせたりしました。

私たちは日ごろから恵まれた環境にあります。そのことに改めて気づいただけでなく、こんなにたくさんの選手が全国から集まってきてくれているということ、私を信頼して人生の大切な4年間を預けてくださる保護者の皆さまがいらっしゃるということも再認識し、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

■自主的な新体操部の選手たち

選手には個人でできるトレーニングを指示していましたが、彼女たちは指示以上のことをしてくれました。例えば、各グループのリーダーを中心にしてLINEで遠隔練習してねと指示すると、毎日どのグループもうれしそうに練習している動画を送ってくれました。それを新体操部のYouTubeチャンネルで公開する提案をしたところ、選手たちが自主的に「この事態で苦しんでいる人たちを励ます動画を作りたい」と話し合い、競技の枠を超えて広く皆さんに訴えかけるメッセージ動画を作ってくれたのです。こうした素晴らしい選手たちを指導できていることを、とても誇りに思いました。

保護者の信頼感も再認識できた

自粛期間中に意識していたのは、週に1回、ナショナルチーム所属者も含め各学年の選手たちとLINEのビデオ通話で話す機会を持つことです。保護者の皆さまとも頻繁に連絡を取ることを心掛けていました。

■重要なのは「どうとらえるか」

現況について、必ずしも逆境だとは思っていません。けがを治す時間や家族全員と過ごせる大事な時間ととらえ、新体操への情熱を改めて実感した選手も大勢います。

いま私が伝えたいことは、どんなことでも「どうとらえるか」が最も重要だということです。今回のことも「悪影響」ととらえるのか、「さらに向上するための時間をもらえた」というとらえ方をするのかで、その後が大きく変わります。私たちは絶対に後者です。ネガティブな言葉はポジティブな言葉より、時には影響力があります。そのことには惑わされないで、自分の道を進むことが大切です。共に自分の道を信じ、前に進み続けていきましょう。

本学の活動指針に基づき再開した新体操部の練習で（6月30日）

やまもと・りか

体育学部准教授／東京女子体育大／日本ナショナルチーム団体コーチなどを経て2011年より本学女子新体操部監督

マネージャーの声　No.38

吹奏楽部

左から3人目が執筆者

副将　堀田真鈴（政経4年）

吹奏楽部は現在9人で活動を行っています。

活動は年2回開催する演奏会を中心に、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストへの出場、各種イベントでのパレードや地域に密着したさまざまな招待演奏、スポーツの応援や学校行事での演奏などがあり、活躍の場は多岐にわたります。

本年度は「当たり前のことを当たり前にこなし、メリハリをつけて音楽を楽しむ」をテーマに活動しています。

3月に予定していた演奏会は主将を中心に部員が一丸となって準備を重ねました。一つの演奏会を開催するにあたって、日々の練習に加え、チラシなどの作成・配布、演奏会の告知、スタッフ・会場の手配など、多くの時間を要しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、中止を余儀なくされました。

この準備期間は少人数で活動する私たちにとって一人一人の責任が大きく、また演奏会に対する意識のずれから部員同士の衝突も多くて辛いこともありました。それでもみんなで演奏しているときはとても楽しく、部員同士もしっかりと向き合うことで乗り越えることができたと思います。今では部員一人一人が責任を持って行動し部活を成り立たせています。

今は、週1回のオンラインミーティングで現状を報告し、時にはたわいない会話で笑いあい、いまだに会えていない1年生に思いを馳せながら活動しています。

初心者から経験者まで学年関係なく、和気あいあいと楽しく活動しています。ぜひ私たちと一緒に音楽を創りましょう。

陸上競技部（駅伝）

前列左端が執筆者

主務　井出 颯（21ア4年）

陸上競技部駅伝部門は現在、選手75人とマネージャー7人で活動を行っています。私はマネージャーの中で駅伝主務を務めています。

マネージャーの主な仕事は、練習時のタイム計測や大会の申し込み、そして本学で行われる競技会の開催などです。朝練習から参加し、給水用のボトルを準備して、選手の体重と体調の状況を定期的に記録し監督・コーチに報告しています。選手のコンディション管理も重要な仕事です。

私がマネージャーをしようと思ったきっかけは、箱根駅伝に対する憧れがあったからです。箱根駅伝というレベルの高い大会で戦う選手たちを見てサポートしたいと思い、マネージャーとして入部しました。

前回の箱根駅伝では、メンバーが大会当日に良い走りができるよう、選手ファーストを心掛けて行動していました。結果は総合19位と悔しい順位になりましたが、ほとんどの区間で国士舘記録を更新できました。しかし、チームの目標はあくまでもシード権獲得です。まずは10月に行われる予選会を勝ち抜き、本戦では必ずシード権を獲得します。

コロナ禍で練習が困難になっていますが、指導者とともに対策を練り3密を避け、安全面を最優先にした上で、この状況下でもできる練習に取り組んでいます。

私は4年生で部活動も集大成となります。今までお世話になった先輩方から学んだことを生かし、マネージャー全員で連携をとりながら、次の箱根駅伝で良い結果を残せるよう全力でサポートしていきたいと思います。

スポーツチャンネルで配信

運動部の最新情報 動画に

国士舘スポーツプロモーションセンター（KSPC）は4月、動画配信サイトYouTubeで「国士舘スポーツチャンネル」を開設した。

現在公開しているのは、本学のスポーツクラブをピックアップし学生アスリートの活動を紹介する動画や、国士舘アスリートをより身近に感じられるインタビュー、運動時の熱中症対策に関する動画などで、バラエティーに富んだ内容になっている。

当チャンネルでは今後も本学学生やご父母、卒業生による大学スポーツへの応援文化醸成を目的として、定期コンテンツのほか、大学スポーツの最新情報などの配信を予定している。

「国士舘スポーツチャンネル」の閲覧はこちら →

うれしい！〝一日甲子園〟

国士舘高校

日本高校野球連盟（高野連）は6月10日、中止となった第92回選抜高等学校野球大会（センバツ）に出場予定だった国士舘高校を含む全国32校を8月に阪神甲子園球場に招き、「2020年甲子園高校野球交流試合」を開催すると発表した。

国士舘高校は正式に同大会へ参加を表明した後の6月16日、多摩キャンパス野球場で練習を報道陣に公開し、永田昌弘監督や主将の鎌田州真選手（写真左）、エースの中西健登投手（同右）らが取材に応じた。鎌田主将は「甲子園でプレーすることはないと思っていたのでびっくりしたが、とてもうれしい。全員で気持ちを一つにして戦いたい」と笑顔を見せた。

昨年11月の秋季都大会で優勝を果たした本校は2年連続となるセンバツ出場を決めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大会中止で、甲子園の土を踏むことがかなわなかった。

甲子園交流試合は8月10日に開幕し計6日間の日程で各校一試合ずつ行われる予定で、本校は同15日に磐城高等学校（福島）と対戦する。感染拡大防止策を万全にするため、無観客試合で開催される。

都大会も開幕

東京都高野連が独自に開催する「夏季東西東京都高等学校野球大会」が、7月18日に開幕した。西大会第一シードの国士舘高校は、同26日に行われる予定の二回戦を皮切りに、昨秋に続く東京制覇を目指す。

サッカー部　1部復帰 リーグ開幕

2020年度の関東大学サッカーリーグ戦が7月4日に開幕した。本学は同5日、流通経済大学龍ケ崎フィールド（茨城県龍ケ崎市）で行われた桐蔭横浜大との開幕戦を戦い、2年ぶりの1部復帰を果たした。

関東大学サッカー連盟は6月12日、延期となっていたリーグ戦の開幕を他の競技に先駆けて正式決定していた。コロナ対策の観点から、前期リーグの全試合は茨城県内での集中開催とし、万全の安全対策を講じた上で無観客試合にて実施される。

延期・中止の競技

新型コロナウイルスの影響で、中止や延期となった主な大会。最新情報は各連盟公式サイトでご確認ください。

※延期日程は7月20日現在

【柔道】
- 全日本学生優勝大会（中止）
- 全日本選手権（延期、詳細未定）
- 全日本選抜体重別選手権（延期、詳細未定）

【陸上競技】
- 日本選手権（10月1～3日に延期／混成競技は9月26日・27日に延期）
- 日本学生個人選手権（中止）
- 関東学生対校選手権（延期、詳細未定）

【レスリング】
- 明治杯全日本選抜選手権（中止）
- JOCジュニアオリンピックカップ（中止）

【硬式野球】
- 東都大学野球春季リーグ戦（中止）

【剣道】
- 全日本学生選手権（中止）
- 関東学生選手権（中止）

【ハンドボール】
- 関東学生春季リーグ戦（中止）

【新体操】
- 東日本学生選手権（中止）

【空手道】
- 全日本学生選手権（中止）
- 東日本大学選手権（中止）

【バレーボール】
- 関東大学春季リーグ戦（中止）
- 東日本大学選手権（中止）

【体操競技】
- 全日本選手権（中止）
- 全日本種目別選手権（中止）

【バスケットボール】
- 関東大学選手権（中止）

【アーティスティックスイミング】
- チャレンジカップ2020（中止）

【ソフトボール】
- 東京都大学春季リーグ戦（中止）

【準硬式野球】
- 東都大学準硬式野球春季リーグ戦（中止）

国士舘創立110周年記念事業の寄付金募集

募金の趣意

国士舘は、創立100周年記念事業（2006～2018）を完了し、「第1次中長期事業計画（2015～2019）」を経て2019年に新たなビジョン「第2次中長期事業計画（2020～2024）」を公表しました。第2次中長期事業計画では、第1次から推進してきた「地域防災力向上のための防災リーダー養成教育に関する研究拠点の構築」の完成を目指します。また、防災教育・研究をはじめ各キャンパスの教育・スポーツ施設の整備を進めます。これらの取り組みにより、本学園の長期にわたるこれまでの改革を更に推進し、私学を取り巻く厳しい環境下で競争力を高めるための計画事業を完遂し、学園改革の総仕上げを目指します。来る創立110周年に向け、本学園のビジョン実現に全力を挙げてまいります。

わが学園が「世のため人のために尽くしうる有為の人材の養成」の建学の精神のもと、国士舘独自の教育をもって発展を続けていることにご理解を賜り、創立110周年記念募金事業計画に温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

- 募金目標額：10億円
- 募集期間：令和2(2020)年4月～令和10(2028)年3月　（8年間）
- 寄付の方法：下記の指定銀行へお振り込みをお願いいたします。ご持参の場合は、募金事務室（世田谷キャンパス）でお受けいたします。※ATMでのお振り込みはご遠慮ください。
- ご寄付受入先金融機関

三井住友銀行　経堂支店
預金種別：普通預金　口座番号：6765802
名義：学校法人国士舘募金口（ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝｺｸｼｶﾝﾎﾞｷﾝｸﾞﾁ）

ゆうちょ銀行（郵便局）郵便振替口座
口座記号番号：00120-0-428129
加入者名：学校法人国士舘募金口（ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝｺｸｼｶﾝﾎﾞｷﾝｸﾞﾁ）

募金の概要

期　別	主な事業項目
通　期（2020/4～2028/3）	▶ 学生・生徒への修学支援事業
	▶ スポーツ・文化活動の振興
	▶ 国士舘大講堂（国登録有形文化財）の保存および防災対策
	▶ 高等学校・中学校の教育環境の充実
	▶ 3キャンパスの教室等の重点整備
	▶ 防災教育の推進強化
	▶ 世田谷キャンパスの再整備の検討
第1期（2020/4～2022/3）	▶ 町田キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスの運用開始
	▶ 多摩キャンパスの拡充整備
	▶ 近隣の救急病院等との連携構築
第2期（2022/4～2025/3）	▶ 多摩キャンパス南野校舎の整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスへのスクールバス運行
第3期（2025/4～2028/3）	▶ 4キャンパスの施設環境の充実

※上記の「主な事業項目」は、計画の具体化により若干の変更を伴います。
また、寄付金は、総事業費の一部に充当させていただきます。

＜募金についてのお問い合わせ＞
学校法人国士舘 募金事務室 創立110周年記念事業募金委員会
東京都世田谷区世田谷4-28-1 Tel：03-5451-8207